

まちづくり市民ワークショップ 実施結果（要約）

	テーマ	主な意見・提案等
A グループ	若者の地方還流・ 定着 都市との交流	<ul style="list-style-type: none"> ○進学をきっかけに若い女性が県外へ転出してしまう。（女性のUターンは少ない） ○働く場所の確保（業種・選択肢を増やす） ○人が少ない、都会に比べ魅力がない、東京・名古屋の中間地点 ⇒交通網の整備により交流人口の増加を図る。
B グループ	子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○リニアの開通は機会（人口流入）でもあり、脅威（人口流出）でもある。 ○ネット社会の拡大により、本物に触れる機会が減少⇒地域産業を体験、実践する機会を創出する必要がある。 ○市民活動グループはあるが、認知度が低い⇒行政職員の参加により相互理解を深める。 ○地域ぐるみで自然とふれあう子育て、教育を推進する。 ○学校、地域、企業、行政による一体的な教育支援を推進する（データ化とマッチング）。 ○ローカルファースト精神、地域文化の伝承
C グループ	自然、農業	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然環境の大切さを一人ひとりが認識し、情報発信していくことが重要である。 ○農業体験の機会を増やす（体験ツアーなど）。 ○公営直売所を設置する。 ○1次産業の賃金アップ（生活保障）を図る。 ○等高線上に伊那市を見渡せる遊歩道を設置する。
D グループ	新産業技術	<ul style="list-style-type: none"> ○「チャレンジできるまち」として実証実験フィールドや空き店舗などを積極的に提供する。 ○情報発信力の強化（市民全体が情報を共有できる仕組み） ○リモートワークの環境整備と推進 ○CCRCの設置を含めたスマートコミュニティの構築 ○モノづくり産業×AI・IoT・ICT ○自動運転によるオンデマンド交通の構築
E グループ	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○既存コミュニティのつながりの強さが、強みである反面、若者や移住者を遠ざけている。（閉鎖的、排他的なイメージ）⇒組織運営に支障⇒地域コミュニティ弱体化の悪循環 ○核家族化の進行⇒空き家の増加 ○住民よる主体的なまちづくり、企業への協力依頼（CSR）
F グループ	子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習、体験型イベントの推進 ○食育、森育、農育、恋活の推進 ○キャリア教育（産学官連携）の推進 ○地域の魅力を子どもたちへ伝える⇒郷土愛の醸成